

湘南学園だより



発行：湘南学園だより編集部



CONTENTS

食育について	理事長 内海直人	2
未来へ向かって湘南学園生に育みたい力	学園長 山田明彦	3
心に響け・・・仲間との絆	PTA会長 近藤えり子	4
諦めない心	後援会会長 田辺真理	4
3歳児の成長	幼稚園年少組担任 大溝みさき	5
Recitation Recital	小学校英語科担当 鈴木茉莉	6
五年生宿泊体験学習『雪の学校』活動報告	五年生学年主任 鈴木智洋	7
広島・周防大島研修旅行から2021バンクーバーへ連なる学び	中高ESD推進委員 有蘭和子	8
「松ぼっくり基金」の開設	理事長 内海直人	10
ご寄付へのお礼と今後のご協力	学園長 山田明彦	12
学校法人からのご報告		



食育について



理事長 内海 直人

食育・カフェテリア・NPO法人湘南食育ラボ

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
卒業生の皆さんは、この恵まれた湘南の環境の中で幼稚園の3年間、もしくは小学校の6年間、中学高校の6年間を過ごし、これから新たなスタートラインに立とうとしています。これからの皆さんの人生が希望に満ち溢れた素晴らしいものになることを願っています。

高校を卒業される皆さんがこれから出ていく社会は、グローバル化・デジタル化・複雑化が進んだ社会です。このような社会に飛び出していく皆さんには、学園で身につけた主体性、自律的に考えることを強みに、多様な文化や考えを尊重しながら公正な判断を行い、自らの道を創りだしていただきたいと思います。湘南学園生としての誇りを胸に、目標に挑戦し続けてください。

卒業生の保護者の皆様、ご卒業誠にありがとうございます。保護者の皆様には、これまでのご理解・ご支援に感謝申し上げますとともに、今後一人ひとりが違った道を歩んでまいります卒業生に、これまでと同様に温かいご支援をお願いいたします。

近年、食に対する関心は年々高まっており、食べた物が健康に直結していることは広く知られるようになりました。そんな中、発酵した土で育てた野菜を給食に導入した学校や幼稚園の記事を見ました。昼食1食だけで効果があるのか？などの疑問があまりかと思いますが、子どもたちにも私たちの基礎体温が上がった事例や、平均6日以上あった欠席日数が翌年からどんどん減り、2年後には平均1日を切ったという事例もあるそうです。

「湘南学園カフェテリア」は、湘南学園関係者はもちろん、地域の方々にとっても憩いの場となっています。その魅力は何と言っても「こだわりの食材を使ってお母さんたちが作る身体に優しい食事」です。地産地消を目指し、オーガニック食材も豊富に用いられています。カフェテリアを運営する「NPO法人湘南食育ラボ」のスタッフの方には学園生の保護者の方々がいらっしやいます。カフェテリアは学園生にとって安心の場所となっています。

湘南学園にお越しいただいた方にはどのような「こんなすばらしいカフェテリアあつてうらやましいですね」と言われます。



事も美味しいし、これが保護者の手で作られていることにも感動されています。カフェテリアは湘南学園の大きな魅力になっています。

NPO法人湘南食育ラボは湘南学園生の保護者の方々と設立したNPO法人で、校内の食堂「湘南学園カフェテリア」の運営を行っています。企業が入らない学校の食堂はめずらしく、そこにはさまざまな苦労があったそうです。元々2013年の湘南学園設立80周年記念の際に「学食をつくらう」という話から始まり、せっかくやるのだから本気で「食育」をやろう」となり湘南食育ラボができたそうです。また湘南学園の特徴であるP（保護者）とT（教職員）が協力しながら法人運営を行っている湘南学園の特色にも合う形を考えると、NPO法人にしたそうです。

この湘南食育ラボは「地域に根差した生産者が育てた安全な食材」を使い「素材を活かしたメニュー作り」をし「広く食育の文化を広げていく」ことを目標としており、設立以来80周年記念館内のカフェテリア運営、学校法人湘南学園の教育事業の支援、推進を中心に取り組まれています。

「NPO法人湘南食育ラボ」理事長である小田さんを中心に、NPOの使命である社会貢献事業と両立しながら、学園生の

ではクラスランチを実施し、子どもたちはクラスランチを毎回楽しみにしています。

カフェテリアが開発した「みゆあカレー」は材料を厳選し、化学調味料・保存料は一切使用していない安心、安全なカレーとして皆さんに愛されています。またお米に関しても副理事長の原田さんは自ら、年に2回3回栃木県の無農薬生産農家に援農に出向き、生産者とともに農繁期の田植え、収穫、土づくりに参加され、子どもたちのために安全安心でおいしいお米の提供に力を注いでいただいています。また防災対策として湘南学園の保存食としても常備しています。

そして、忘れてはならないのは学園生とカフェテリア・湘南食育ラボのつながりです。学園生が提案したイベントや学園祭では勤務時間外にも関わらず子どもたちに寄り添い、目標の実現のためにお力を貸していただいています。中でも2016年から参加している首都圏の中学生が考える「鹿児島県鹿屋市が抱える100の課題」チャレンジ事業である「かのや100チャレ」は学園生と湘南食育ラボの象徴的なコラボレーションになりました。

「湘南学園独特のカフェテリアを生かして鹿屋市の食材をアピールする」という内容で発表し、実際にカフェテリアで鹿屋市特別メニュー「カンパチの照り焼き」や「深蒸し茶の寒天」を出しました。どれも大好評で、すぐに完売となりました。



またカフェテリアは学園生にとっての「再会の場」になっています。成人の日の当日に毎年百数十名の卒業生がカフェテリアに帰ってきてくれるのです。

この「湘南学園成人を祝う会」は学校が決めた行事ではなく、毎年自然な形で取りまわす卒業生が実行してくださっています。これらの行事は湘南食育ラボの協力なしには絶対に成功しませんでした。改めて湘南食育ラボの皆さんのご支援に感謝申し上げます。

2019年から湘南食育ラボ、学校法人は新たな取り組みも開始しました。卒業生でテレビでもおなじみの早稲田大学ナノエクス研究機構の矢澤一良教授や、オーガニック農業に携わり湘南食育ラボへ食材もご提供いただいている白戸卓志さん、家庭教育に関し多岐にわたる活動を行われていた和田みゆきさんを中心とした食のサロン「サロnde湘南」を発足させ、昨年7月と11月に「食が変わると〇〇が変わるサロン」と題してイベントを行いました。来年度は幼稚園との企画も進行中です。

2020年も湘南学園カフェテリアは学園生の健康はもちろん、食育の分野でも食の発信地として様々な学びを提供してまいります。ご期待ください。

最後になりましたが、教職員・PTA・同窓会・後援会・食育ラボ・パートナーをはじめとする「チーム湘南学園」の皆様、この2年間のご支援、誠にありがとうございました。我々の理事在職中にいただきましたご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。2020年度は理事会役員改選期にあたり、4月から始まる新しい湘南学園理事の程、引き続きご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



未来へ向かって 湘南学園生に育みたい力

学園長 山田 明彦



2020年代に入った 世界・日本と

湘南学園の教育

2020東京五輪がいよいよ開催されます。広範な大型建設プロジェクトが進行し、各地で街の景観が変貌中です。海外から来日する人びとが一層増加し、コミュニケーションの機会も広がることが期待されます。一方、大統領選挙を控える米国、英国離脱後のEU、香港・台湾と中国など、世界の情勢が注目されます。軍縮や格差は正よりも「自国中心主義」を優先して国際協調に背を向けるような風潮が懸念されています。

国連の掲げた「SDGs」は、「2030年までに私達の世界を変革する」決意で提示されましたが、この4年間の進捗状況は厳しく、2020年代の10年間の取り組みは人類全体と次世代の生存や生活に直結する責任を担うと指摘さ

れます。こうした時代背景のもとで、湘南学園は建学の精神に立ち返り、「持続可能な社会の実現に寄与できる実力ある人間を育てる総合学園」としてのミッションを深め、教育の充実や改革を図っていきたいと考えるものです。



学園生の皆さんに 身につけてほしい 「生きる力」

建学の精神にもとづく上位の教育目標として「学園生に育みたい力」を、以下のように掲げたいと考えます。

- 1 人を大切にして、つながりを広げられる力
- 2 自分の考えを深めて、さまざまな機会に表現できる力
- 3 主体的に行動して、新たな課題にチャレンジできる力

以上の三つの力です。人はそれぞれ個性を持ち、気質や性格も様々です。でもこれらの力は普遍的に大切であり、情報化や孤立化の進む社会において自分を守り、人生の可能性を広げていく上で重要な「人間力」の内実となるものではないかと考えています。

いつも出合いを大切に、多様な立場や文化も受容して対話や交流を楽しめること。読解力や思考力を伸ばし、プレゼンの機会を重ねて個性を表現できる手応えを重ねること。自分の生活と時間をコントロールして自分の意志で行動を選べること。時には勇気を出して踏み出せること。入学と卒業

の時期にそれぞれ違いがあっても、入学と卒業の時期にそれぞれ違いがあっても、最長では15年間もの学び舎で育つていく学園生たち。湘南学園生の学びと成長をそうした視点から統一的に捉え直したいと思っています。



学園生の将来への 意欲を育む

大人の指導・支援

国内でも海外でも困難な現実ではありますが、「持続可能な社会の再構築」が人類の課題として自覚され、国境を越えた交流や協力が広範な分野で進展しています。大人のさまざまな仕事や人生、生き方やつながりを知ることが大切です。「世の中ってすごい！自分もやってみよう」というあ

こがれや積極性を育みたいのです。次世代の若者に重要な情報を紹介し、出会いや体験や探求をサポートしていくことは教員や親の大事な務めです。

“もつと勉強しなくては”という自発的な学習意欲をどう引き出すのが焦点です。現状を分析して従来の教育内容や指導体制の見直しを進めるべき時代に入っています。厳しい予測にまけない学園生の希望ある将来のために教育の充実を図らなければなりません。広い分野における学園生のチャレンジを奨励したいと思います。失敗も糧に手応えを重ね、生涯にわたって「学び続ける」積極性を身につけてほしいと願うものです。



心に響け・・・仲間との絆

PTA会長 近藤 えり子

卒業生の皆さん、いよいよ卒業ですね。今、ひとつの節目を迎え、湘南学園での思い出を振り返ると感慨深いものがあります。そして、次のステージの新たな高みに向かっての挑戦が始まります。

湘南学園で培った幅広い力を存分に発揮され、未来を切り開き、これからの皆さんの人生が幸せに満ちたものであることを心よりお祈りいたします。

湘南学園は、昭和8年の創立以来、子どもたちの個性を尊重した自主性を育む自由な教育により、気品高く明朗な将来社会に役立つ人間を大きく育てるという建学の精神を守り、お陰様で86周年を迎えることができました。湘南学園の取り組みの中に、持続可能な開発の為の教育というものがあります。人類社会が直面している危機的状況を直視し、持続可能な社会の形成に向けて、人々の生き方や基本的な価値観を変えてゆくことを目的とした教育の営みで、私たちの人間社会が、衰えたり減んだりすることなく、遠い未来まで持続できるために必要な行動や態度などを学び、実践し、そして今、新しい湘南学園の魅力を作り出しております。

私は、18年間、PTAに携わせて頂き本当に感謝しております。いろいろな経験をさせて頂いたなかで、人との絆がこれほどまで尊く、大切なことだと感じさせられました。多くの皆様から、「恩をいただき、そのご恩返しをさせていただきたく自分なりに努力をしてきたつもりではあります、常に人として正しい道であるかと、問いながら取り組んで参りました。しかし、振り返ると「あの時の判断は正しかったのか」「あの時、こうしておけば良かったのか」ではないか」「子ども達のためになったのか」などと後悔とまわり道の連続だったと感じております。そんな中、皆様の何気ない言葉に救われた瞬間が多々あり、仲間との絆が心を穏やかにし、あたたかい心を沢山いただきました。

どんなに反省し、嘆いても過去は変わりません。どんなに望んでもそこに戻ることは出来ないのです。過去にとらわれ過ぎず、自分の夢を描き、それに向って今を正直に生きることを大切にしたいと思えるようになりました。

卒業生の皆さんも、新しい世界へのチャレンジの中で、辛いこともあるかも知れませんが、また、人生のステージを変え、初めての環境に身を置く人も多いでしょう。これまでと違った生活や挑戦は、多かれ少なかれ経験したことのない様々な試練が待ち構えていることでもあります。逃げ出したくなることもあるでしょう。現実に戸惑い、傷つき、思ったような結果を出すが出来ず、打つ手がなくなつて途方に暮れていませんか。人は周りと違うことを恐れ、何かが失われるかもしれないと思うことは自然なことですが、

「何が幸せなのかはわからないのです。どんなに辛いことでも、それが正しい道を進む中の出来事なら峠の上りも下りも本当の幸せに近づく一歩なのです。」

世の中を正しい方向に向けて変えていこうという宮沢賢治の言葉があります。『正しい道を歩むことが幸せへの道である』心に響く透き通ったものに触れたような気がします。

春、新しい夢への挑戦をする季節。生きていけば必ず変化があり、初めて気づく新しい発想も沢山あるのではないのでしょうか。新たなことに取り組み、その壁が高ければ高いほど、人は磨かれ、逞しく成長できるのだと思います。

個性豊かな皆さんは、そのような逆境を楽しむすべを知っているはずですよ。自分でも知らなかつた能力や可能性に出会える良いチャンスでもあるのです。仲間との絆を宝物にして、湘南の風を追い風に、自分自身に誇りをもち、夢に向かって挑戦してください。

さあ、春の陽光を浴びて

スタートしましょう。

諦めない心

後援会会長 田辺 真理

東京2020オリンピック・パラリンピックイヤーである本年、こゝ藤沢でも、江ノ島ヨットハーバーにて、オリンピック・パラリンピック競技が開催されます。そんな折、昨年、4月20日、後援会総会及び講演会にて、パラアイスホッケー（当時アイススレッジホッケー）銀メダリストアスリートの上原大祐さんにご講演頂く機会がございました。

大祐さんは、生まれながらに二分脊椎という障がいを持ち、車椅子での生活ですが、19歳の時にアイススレッジホッケーと出会い、2010年のバンクーバー冬季パラリンピックで、準決勝のカナダ戦で決勝ゴールを決め、銀メダル獲得に貢献されました。



大祐さんはいかに明るいです！笑顔がとってもステキで、バイタリティに溢れた生き方は、幼い頃からポジティブシンキングであつたこと。不自由を不自由と思わせないこと

がとても感動的でした。

やりたいと思つたことは、最初から諦めないで何でもやってみる。どうしたらできるか考え努力する。その人並外れた行動力は目を見張るものがあります。

お母様の鈴子さんとのエピソードにも引き込まれました。大祐さんが、「これやりたい！」普通の親なら、それは無理とかそれは危ないからダメとか言いそうなのことも、最初からダメということは言



われなかつたそうです。できなさそうなのことも、何か方法はないかと常に考えて下さるお母様だったそうです。そういったお母様の考え方、影響力は、大祐さんにとつて、とても大きかつたのだと思います。

現在、大祐さんは、アスリートとして、そして障がいを持つ子ども達と、その親御さんをサポートするためのNPO法人「DISHIPS32」を立ち上げ、多方面で活躍されています。また、学校に行かない子ども達の支援もされております。日本社会は、まだまだ障がいを持った方が、生活しやすい環境ではありません。現状を多くの人に伝えることも環境を変える第一歩にもなるため、講演活動も多くされています。

溢れ出るパワーと、人を寄せ付ける魅力的なお人柄に、学園の子ども達が触れる機会を作って頂けたら、素晴らしいと思います。

そして、今年4月18日に開催予定の後援会総会及び講演会に、お母様の上原鈴子さんが、大祐さんと一緒に親子講演頂けることになりました。今からお会いできるのが楽しみです。学園関係者、保護者の方にも、多くご参加頂けると幸いです。講演終了後、事務所前で握手し、お見送りしたあと、ビューッと早いスピードで走り去った大祐さんの、力強く車椅子を走らせる姿がとても印象的でした。

3歳児の成長



幼稚園年少組担任 大溝 みさき

子どもたちは、4月に入園し初めて親から離れ、先生や友達と共に過ごす生活を送ります。心細い思いをたくさん経験する子どもたちですが、自分の力で生活する中で、様々な力を身につける大切な1年です。

朝自分の靴を背負い登園した子どもたちは、身のまわりのことを自分で行います。外履きを上履きに履き替え、靴をロッカーにかけ、タオル・お弁当袋・出席ノートを出し、自分の場所に置きます。雨の日にはレインコート、寒い日にはジャンパー・コートの着脱も自分で行います。指先を器用に使い、ボタンやファスナーを外し、上着を小さく畳み籠にしまします。



このように身のまわりのことを毎日繰り返し行う中で自分で生活していく力をつけていきます。



お弁当を頂く時には、自分でラシオンチョンマットの上にお弁当・コップ・箸・箸置き・歯ブラシを一つ一つ準備します。1学期は、先生がテーブルを拭いていましたが、2学期にもなると、子どもたちが自ら台布巾を水道でゆすぎ、絞り、広げて、テーブルを丁寧に拭き上げ食事の準備を始めるようになりました。子どもたちは常に私達大人の姿を見て、様々なことを吸収しています。はじめのうちは台布巾を絞る力もなかったのですが、濡れたままの台布巾で拭き上げていた子どもたちが、先生の助

言を聞いて、毎日のように絞る経験を積み重ねることにより、感覚を覚え「ぎゅつ」とするとポタポタしないね」と自ら気付く姿が見られるようになりました。子どもたちが自分の力でできることに手立てを伝え、「出来なかったことが出来た」「次はこれをやってみよう」という自信や意欲につながられるように一人ひとりの姿に応じて丁寧に関わること大切にしています。



あそびの中での姿

年少児にかかわらず、遊びは子どもの学びの原点です。遊びを通して、友達の存在を知り、子どもたちは自由に楽しんで遊んでいるうちに、生きていくために必要な様々な力を吸収していくのです。

幼稚園では、子どもたちが自主的に砂遊びをしたり、ごっこ遊び、空箱を使って製作をしたりと様々な遊びが展開されています。周りの友達や年中児・年長児の姿を見て様々な工夫や考える力も吸収し自らの遊びに取り入れています。

1学期には、一人一人が安心して幼稚園で遊ぶことができるように子どもたちと信頼関係を築き「幼稚園が楽しい」と思えるように関わっています。

そして、一人一人が自分の世界を楽しめるよう、安心できる環境づくりに配慮しています。2学期になると、同じ遊びをしている友達との関わりが自然と生まれます。「友達と一緒にだと楽しい」と言う思いが芽生え、遊び方や世界観が大きく変わります。1人で作る楽しさよりも友達と同じようなものを作る楽しさを感じ始め、友達との関わりが増えていきます。また、年中児・年長児がやっていること



に興味を持つ子も出てきます。次第にその魅力に引き込まれていくようにじっと見て楽しんで遊び、その姿を見て「あんな風によつてみたい」「作ってみたい」と言う思いが生まれています。年少児はキラキラした眼差しで年中児・年長児や友達のとつていることを断片的に真似したり、ときには知識を借りながら遊びに取り入れています。このように子どもたちは遊びの中で日々たくさんのことを吸収し、学び、成長しているのです。

園生活を始めて1年目の年少児ですが、日々の生活や遊びの中で様々なことを学び、経験しそれを自分の力として吸収していく姿には無限の可能性を感じます。私たち教員も日々、変化し成長する子どもたちとともに、作り出す面白さや気づいたこと、また、できたときの喜びを一緒に感じながら一人ひとりの成長をこれからも見守り援助していきたいと思っています。

Recitation Recital

小学校英語科担当 鈴木 茉莉

Let's Enjoy English

2019年12月16日、昨年度に引き続きRecitation Recitalが行われました。この発表会は、英語の歌や詩を音読練習し、英語の音やリズムを楽しむながら覚えて発表する会です。昨年度は、4・5・6年生の希望者のみでしたが、今年度は規模を拡大し、全学年の英語集会となりました。



1・2・3年生は、ジェスチャーを交えて英語の歌を全員で発表し、盛り上げました。英語の音やイントネーションの面白さを、表情や体全体を大きく使って表現します。発表に向けて授業で言葉の意味やジェスチャーについて一生懸命考えました。



1年生はリズムが面白い歌に挑戦しました。英語を使うときの表情の柔らかさを意識して取り組みました。2年生はドレミの歌の英語版に挑戦しました。各クラスごとに発表するだけでなく、楽しそうに発表することができていました。3年生は前置詞がたくさん隠れた歌を披露しました。どんどんジェスチャーを増やしながら身体を使って楽しく披露しました。

会場の照明を落とし、雰囲気を変えて後半の発表の始まりです。4・5・6年生は、各クラスごとに違う詩を授業中、クラス全員で音読練習し、代表者が発表しました。約600人の前で発表には、自信を持つことが大切です。この日のために、休み時間にも英語科室で英語の先生と何度も練習を重ね、クラスの友達にもサポートしてもらい、自信をつけました。詩のテーマ『winner』に合わせて、様々な表現を披露しました。



手作りの粉雪を降らせてみたり、ニンジン（雪だるまの鼻）を持ってきたり、パワーポイントで、クラスの友達に使ってもらったりしました。詩の言葉を、抑揚やアクセントをつけて表現しているグループもありました。



今回で第二回を迎えたRecitation Recitalは、学校全体で英語に触れて楽しむことができました。特に、発表をした上級生の姿を見て、下級生の子どもたちが「私も来年挑戦したい。」と言っていた姿が印象的です。「英語を身につけるのは難しい。」という考えは、子供たちだけでなく大人でもそう思ってしまうことはあります。英語の学習には、『英語を楽しむ気持ち』が最も大切です。英語集をきっかけに、英語の独特の音やリズムの楽しさを学校全体で共有できた、貴重な時間になりました。



当日のプログラム

- | | |
|---|------------------------|
| 1年生 Baby Bumble Bee | 5年生 |
| 2年生 Do-Re-Mi song | 1組 Santa Claus |
| 3年生 There is a hole in the bottom of the sea. | 2組 Winter is Warmest |
| 4年生 | 3組 Santa Claus's Visit |
| 1組 Five little rain deer | 6年生 Peter Piper/ |
| 2組 A cute little snowman | How many cookies |
| 3組 Snow Ball | |



五年生宿泊体験学習

『雪の学校』活動報告



五年生学年主任 鈴木智洋

一月二日から二四日にかけて、五年生は新潟県十日町市を訪ね、『雪の学校』を行いました。

『雪の学校』は、雪国のくらしを体験し、生活や環境に対する視野を広げ、人間性をより豊かにすることを目的としたプログラムです。今年で九度目の実施となりますが、雪遊びや民泊体験など、この行事ならではのイベントが目白押しで、開始当初から、子供達にとっても人気のある行事となっています。

【まさかの雪不足】

これも温暖化の影響なのでしょう。今年はまさかの雪不足に、頭を悩ませることとなりました。

活動場所である十日町市は、日本有数の豪雪地帯。一月中旬には、何メートルもの雪が当たり前のように積もっている地域です。例え雪の少ないことがあっても、数十センチ程度は積もっているもの。それが、今年はほぼゼロに近いという状況でした。ニュースを見れば、「日本中が雪不足」「雪をテーマにした各種イベントの中止」などの話題が飛び込んできます。

出発前、子供達は「雪の学校はどうなっちゃうの？」と不安そうな表情を見せていました。

【子供達のために】

「せっかく雪国に行く（来る）のだから、少しでも雪にふれさせてあげたい」「万一雪がなくても、十分に満足できるイベントを用意してあげたい」

準備期間中、子供達のために、教員や旅行会社のスタッフは勿論、現地の方々も加わり、大人達が丸となった活動内容の再検討を行いました。積雪状況を確認しては、雪遊びのできそうな場所がないか調査をしたり、民泊中の体験内容について相談を重ねたり。ぎりぎりまで調整を続けた結果、すべての日程が整ったのは、出発の直前でした。

子供達へ、思い出に残る素敵な体験をさせてあげたい。今年度も、多くの方々に支えられ、『雪の学校』が始まりました。

【活動初日】

初日は、現地への移動後、雪遊びが主な活動となります。

実はこの日、子供達を待っていたかのように、十日町で久しぶりのまとまった雪が降り、雪遊び会場となる松之山スキー場には、一晩で四〇センチもの積雪がありました。

連日雪不足の報道を耳にしていた子供達は、道中不安そうな顔をしていましたが、スキー場に着き、目の前に広がる一面の雪景色を見るなり、ぱあっと輝く笑顔に。

「すっごくいい！」

遊び開始の合図を聞くや否や一斉に走り出し、思い思いの遊びを始めました。新雪にダイブしたり、雪合戦を始めたり、先生や友達を雪に埋めたり。傾斜をゴロゴロと転がり落ちる子供もいます。

「雪不足なんて嘘みたい！」

「学校のまわりじゃ、絶対に、こんな積もらないよ。」

「雪景色って、本当に銀色なんだね。」

雪国ならではの雪遊びを、一人ひとり、思いきり楽しみました。



【活動二日目】

二日目の主なプログラムは、ブナの森の散策とわら草履作りです。

わら草履作りは、地元の手仕事師の方々にご指導いただきながら作業を進めました。わらは



編むことなどほとんど経験がなく、悪戦苦闘していた子供達でしたが、手仕事師の方々がやさしく丁寧に教えてくださったので、誰一人リタイアすることなく、最後まできちんと仕上げることができました。

完成した草履を、早速履いてみせる子供達。完成した嬉しさと誇らしさを笑顔に乘せ、充実した表情を見せてくれました。

【活動三日目】

三日目の主なプログラムは、民泊体験です。十日町市にお住まいの方々を訪ね、それぞれのお宅で実際に生活をし、雪国のくらしについて学びます。

お餅作りをしたり、蒟蒻作りをしたり。お仕事体験をしたり、雪山トレッキングをしたり。

ご家庭によって体験できる内容は様々ですが、どのご家庭もずっと前から子供達を受け入れる準備を整え、楽しみに待っていてくださいました。



【活動最終日】

普段できない貴重な体験をし、現地の方々の温かい心にふれ、子供達はたくさん感動を得たようです。

後日、民泊体験中に何をしたか子供達に聞くと、

「小山さんって凄いだよ！」

あのね……

「瀧澤さんの家ではさ……」

と、楽しそうに語ってくれました。

民泊先の方々をはじめ、お世話になった十日町市の人達と、お別れ会をしました。たった数日という短い期間でしたが、まるで本当の家族のように親しくなり、お別れの際は、涙をこぼす子供も少なくありませんでした。

「雪の学校で皆さんと過ごした思い出は、ずっとずっと忘れません……」

今年も感動にあふれ、充実した四日間となりました。

広島・周防大島研修旅行から

2021バンクーバーへ連なる学び

中高ESD推進委員 有 蘭 和 子

湘南学園総合学習は、

「人格形成のカリキュラム」

学園中高で、「特別教育活動(特活)」が始まったのは、1990年代。今からおよそ30年前のことでした。当時は、まだ文科省の学習指導要領にもない、本校が独自に行う「人格形成のためのカリキュラム」でした。

その後、2002年に学習指導要領の改訂が行われ、数年後、本校でも「総合学習」と呼ぶようになりました。

そして2013年には、ユネスコスクールのネットワークに参加。国連がMDGs・SDGsを提起する中で、総合学習は、いよいよ湘南学園ESD(学園では、「持続可能な未来の担い手を育てるための教育」と呼んでいる)の根幹に位置づけ直されることとなりました。

さて、この教育活動の中で私たちが常に大切にしてきたことは、①実際にその場所に行つて、あたらしい体験をしたり、当事者に会つて、直接話を聞き考える中で、生徒諸君が自らの認識を豊かにしていけるような活動にすること。

②生徒諸君が、活動の中で課題を見つけ、自分には何ができるかを考え、「行動力」を育ん



でいけるようなとりくみを目指すこと。

そしてさらにもう1つ、③中1から高3までの「生徒の発達段階」を踏まえた活動にすることです。

「15歳」は重要な発達の節目

人間の発達が最も著しい思春期に、どんな学びを体験するか、どんな人に出会ったかはとても重要なこと。ですから総合では、「何か体験させればいい」とか「楽しく活動できさえすればいい」のではなく、それぞれの時期にどんな認識をもてるようになったかを重視してきました。とりわけ中3学年のメインイベントである研修旅行をどうするかについては、これまで様々な模索をしてきました。

15歳は重要な発達の節目。知的関心が高まる一方で、社会に対して反発したり、自分なりの考えや主張をもつようになってきます。個性化も顕著です。

生徒諸君は、中1・中2時代、班やクラス活動の中で、様々なリーダーシップ・メンバーシップを学んできますが、中3になると、同じ学年・クラスのなかに、「自分とは違う多様な考え方・感じ方をもった人間がいる」ということを顕著に感じとるよう

になってきます。中3段階は、そういった「違いを認めあいながらも互いに関わっていける学年集団づくり」を学んでいかねばならない時期でもあります。つまり、異質なものの同士が意見を交わしながら、学年全体に関わる問題の解決方法を模索していくという課題もでてきます。それまでの「気の合った仲間」だけではなく、「他のグループ」とも関わりあっていくためにはどうしたらいいか。関係がうまく作れず、こじれてしまった時、悩みながらも解決への糸口を探そうと努力し、行動してみる。こういった活動をいろいろな場面で体験していくことが、中3生たちの発達課題といえます。

いろいろな生き方に出会えた

ヒロシマ・周防大島への旅

そこで中3での総合学習、とりわけ研修旅行は、「自分とは異なる地域に住む人たちのものの見方や考え方」生き方に触れ、新しい価値観に出会い、生き方のヒントをえる。『そういうキヤリアデザイン的な機会としても位置づけたいと考えてきました。つまり、こうした考え方にたつて、「広島での平和学習」そして「山口・周防大島での民泊体験」を柱にすえた中3研修旅行が実践されてきたわけです。原爆による放射線障害に苦しみなながらも、核兵器がこの地上からなくなることを願い、語り部としての生き方を選択し、取り組んでこられた方々との出会い。



碑めぐりガイドの方と巡る広島平和公園

そして、第一次産業が困難をかかえ、人口の流出と過疎化に直面する地域で、「人々が大切にされる村づくり」を求めて努力してこられた方々との出会い。それらを通して、「人間らしく生きるとはどういうことか」「自分はどんな生き方を選択するのか」…出会いと体験を通じて考える。それがこれまでの中3研修旅行であったといえます。

この旅のまとめを、次のように綴っている生徒がいました。

「過去に何が起きたか、ちゃんと振り返ろうとしなければ、ホントにまた再び、同じ歴史が繰り返されてしまうかもしれない」
(平和学習を終えて)

「民泊先のおじいちゃんに、『死にたいくらい苦しいことがあったら、もういつべんこへ来い!』って言ってもらった。苦しい時帰ってきたら思える場所があることが、人間らしく生きていく土台だと感じた」
(周防大島で)



手を振って見送ってくださる民泊先のおじいちゃんおばあちゃん

海外研修旅行の空に

託すもの

…新たな学びの旅へ

さて、すでにみなさまご承知の通り、2021年度中3(いまの中学1年生)研修旅行は、行き先をカナダ・バンクーバーに移すこととなりました。実はこれを知った中3以上の生徒諸君から、「え?なんで広島行かないの?」「周防大島行けないなんて、かわいそう」という声があがりました。私たち教員の間でも、「ヒロシマに連れて行く機会を失っていくのか?」「英会話などを重視するあまり、平和教育を軽んじるようなことにならないか」等々、様々な議論があ

りました。

しかしながら、本校が長年続けてきた海外セミナーの他、オーストラリアノックス校への中期短期留学、あるいはロータリークラブによる1年間の青少年交換留学経験者たちの成長を見るにつけ、中高の早い段階で、学年全員が一度は海外に行くという機会をなんとか作れないものだろうか、と考えるようになりました。

こうした思案の中で生まれたのが、「中3海外研修旅行」です。行き先は、カナダ・バンクーバー。向こうではホームステイをベイスに、日中は、クラスや学年の友だち、担任・学年教員団と行動する予定です。

旅そのものの魅力と、豊かな学びに溢れた、これまでの国内研修旅行に負けない価値ある旅の実現に向けて、今、さらなる準備を進めているところです。



グロウスマウンテンにて、先住民の語りを聞く

「世界で最も住みやすい都市」バンクーバーでも平和教育

では、「なぜバンクーバーか？」ご存知の通り、バンクーバーは、イギリスの経済誌「エコノミスト」が発表する「世界で最も住

みやすい都市」で、10年以上にわたりトップクラスの評価を受け続けてきた街です。人が住んでいる地域の近くに素晴らしい自然環境が残っていること。治安の良さだけでなく、バリアフリーの都市計画でも注目を集めていること。また、様々なグリーン事業を推進して雇用を増やすなど、経済的な基盤づくりをはじめ、大型廃棄物の削減、建物のエネルギー効率の改善などを政策として進めていること。さらには2020年までに、温室効果ガスを2007年レベルと比較して33%削減することを目標としていることも注目に値します。そして何より、市の郊外に位置する名門ブリティッシュコロンビア大学は、ESDの学びの宝庫。このようにバンクーバーは、持続可能性をキーワードとした中3研修旅行に、いま最も相応しい場所と言えます。

さらに、バンクーバーには、核兵器の恐ろしさや、その影響について学ぶ機会を重視する「平和教育プログラム」があります。昨年行なった下見では、IPPNW（核戦争防止世界医師会議）の元会長Mary Wynne Asford氏と懇談。「カナダの子どもたちにも、しっかりとヒロシマやナガサキの原爆の被害についての認識を育てたい。日本の同世代の子どもたちと交流することができたら何よりです」とのお言葉をいただきました。

Asford氏は、医師として幾度もヒロシマを訪れ、日本の医師とも交流。2012年には、な



11月…まだ紅葉が美しいBC大学の構内

んと北朝鮮の医師たちに招かれ、ヒロシマの医師らと共に平壤にも行かれたとのこと。バンクーバーの交流校選定に際しても「尽力いただいています。Asford氏は、バンクーバーやビクトリアでの「TED Conference」(テド・カンファレンス)にも幾度か登壇されていますので、ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/vRIsbHvJQk?t=29>

カナダ旅行までの2年間

英語力アップのために

ところで、現在の中学1年生諸君は、この春YA(ヤングアメリカンズ)とのダンスパフォーマンス体験交流を経験します。中2では、これも全員で「校内イングリッシュキャンプ」に臨みます。これらはいずれも「英語力アップ」を目指すものです。が、これまで英会話の機会が少なかった諸君にとって、とても高いハードル。「自分には絶対に無理!!!」と思っている諸

君も少なくないでしょう。しかし、だからこそ、中学生の早い時期からネイティブスピーカーとのコミュニケーションを経験し、日本人にありがちな「緊張のハードル」を下げて行くことを目指したいのです。

これらの経験を通じて、日常の中に、少しずつ英語を聞く時間を増やし、耳が慣れてくるような機会を作れたら素晴らしいと思いませんか？

私も英語は苦手ですが、フィンランドやカナダで研修させてもらう中で、「ああ、もって聴きたい!もって話せるようになりたい!」と、強く思うようになりました。

瑞々しい感性に満ちた中学生ならなおさら!英語への苦手意識を越える好奇心と冒険心でハードルを乗り越えていつて欲しいなあと思っています。(でもなかなか不安は拭えないもの。困った時は、遠慮なくセンサーたちを頼ってください。)

今年のヒロシマ・

周防大島から

バンクーバーに連なる学びを

バンクーバー研修旅行は、これまでの国内研修旅行で実現してきた「豊かな学びの質」を受け継ぐものとして始まります。「平和な社会を実現するために、いま私たちが知り、考えるべきことは何か」「持続可能な社会、人間らしく生きられる社会の実現のために、人々はどんなふうに取り組み、努力しているのか:」

これを、いまの中2生たちが中3になって広島・山口で学び、帰ってから後輩たちに語る:そんな機会を持つことができたなら素敵だなあと思っています。校内には、Jam's gardenプロジェクト諸君をはじめ「周防大島ファン」は多く、もしかすると、いまの中3以上の生徒の中にも、「カナダに行く子達に伝えたい!」と、申し出てくる生徒がいるかもしれません。



別れの時…悲しくなってしまう。おばちゃん大好きだ!

こうした生徒間の交流の中で、日本の地方に暮らす人たちの「持続可能な生き方や暮らし方」について学んだ後輩たちが、今度は自分たちも「平和」「環境」「暮らし」について考えてみる。その学びが、きつとブリティッシュコロンビア大学での学びや、学校交流を通じて、平和について共に考える場面にも連なるはず:そうひそかに期待しています。





「松ぼっくり基金」の開設

ご寄付へのお礼と 今後のご協力をお願い

理事長 内海直人
学園長 山田明彦

「松ぼっくり基金」の開設

広範なご寄付に

感謝いたします

湘南学園は、令和の新時代を迎えて、学園教育の充実と経営の安定を推進し、独自の私学として教育の使命をはたすべく、昨年10月に「湘南学園松ぼっくり基金」を創設いたしました。

開設以来わずか数か月で、次ページ一覧表のように多額の寄付金を頂戴しております。この表は1月10日までの集約ですが、合計で500万円近くの総額になっております。

ご寄付を寄せて戴いた皆様に謹んでお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今回の設定では、使途を指定しない「一般寄付」とともに、「使途指定寄付」の項目をご用意したことが大きな特色です。「この分野やこの学校への具体的な支援になるような寄付をしたい」といった意向が広くおありになるのではないかと考えました。

「松ぼっくり基金」

運営委員会の予定

この基金の運用について11月30日に、第1回松ぼっくり基金運営委員会を開催しました。

学校法人理事会・PTA・幼小中高各パート・法人事務局・同窓会・後援会の各代表者の皆様でこの委員会を構成しております。今後年に三回、3月・7月・11月に運営委員会

を設けます。入金・出金・残高の実績を確認し、使途指定の申請を受けた採用配分に関する検討を行います。毎年度、運用実績に関するご報告とそれ以後のご寄付のご協力をお願いする文書をご用意し、ご案内パンフレットやホームページ掲載の更新をはかってまいります。

最も大事にすべきことは、皆様からのご寄付についての収支管理を徹底し、ご協力戴いた方々に対してどんな分野にどれだけの金額で活用させていただいたかのご報告を継続していくことです。学園生と学園教育へのご貢献に感謝の気持ちを伝え、同時に学園の現在の動きや、今後の学園教育の方向性についても明確に広報していくことが重要であると考えております。

運営委員会ではこうした施策についても意見交換を進めていきます。継続して協力していただける方々が広がることも祈って、真摯に取り組んでまいりたいと存じます。

同窓会・後援会から戴いてきた

「教育振興基金」

のご協力について

この機会に「松ぼっくり基金」開設の前からすでに学園教育に寄与していただいていた「教育振興基金」の実績についてご紹介いたします。

中高が海外セミナーの実現に着手してプログラムを拡充し、姉妹校を

発掘し、海外留学生受け入れも広げた時代に、学園創立80周年の記念事業が実施されました。「ESD」を軸とする教育活動再編成を構想して「ユネスコスクール」に加入し、続いて「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」のアソシエイト校に認定された時期に、小学校は環境教育に力を入れて「グリーンフラッグ」を取得し、国際環境教育基金に評価されて「エコスクール」に認定されました。

こうした学内の動きを支援しようと湘南学園同窓会から基金の発足が提議され、80周年記念事業の一環で、大口募金の特別寄付金を財源に2000万円近い原資をもとに「教育振興基金」が発足しました。その後も毎年同窓会から基金を積み立てていた



き、さらに後援会も毎年ご寄付に加わっていただきました。詳細はまた後日ご紹介しますが、この基金の活用により「新たな海外セミナーの実現に向けた視察や情報収集」が広がり、東欧・台湾・豪州など新規セミナーの着手をサポートしていただきました。次に「教育先進国や英語分野の視察研修」で、米国の世界的トップ諸大学や、フィンランドの国民教育の展開の様子を学園教員一行が視察見学することができ、学園教育の現状と課題を考察することができました。中高では「SGH・ESDの展開へ向けた視察・情報収集・申請準備」でも多数の事業を実行できました。厳しい財政環境の中でこの貴重なご支援により、学園独自のグローバル教育やESDのプログラムを推進する一助とさせていただいたのです。これまで7年間にわたる毎年の活用によって、基金の残高は大幅に減少しましたが、この検討と実績は全学的な共有財産となりました。

学園教育の発展へ向けて 引き続きのご支援を お願いいたします

上記の「教育振興基金」の成果も参照し、「松ぼっくり募金」との統合も模索しながら、広く学園教育の充実と発展のために、皆様からの寄付金を運用させていただきたいと存じます。

2020年代の世界が、持続可能な地球社会を目指して国際協力を力強く推進できるかどうかは、地球環境と次世代の人類の生存に関わる重要な岐路となることが指摘されています。

湘南学園らしい「グローバル教育」の充実や、SDGsを軸として人類課題に向き合う「ESD（持続可能教育）」の発展は、建学の精神を具現化する課題であると考えます。教職員の視察研修や、学園生の国際交流や学習プロジェクトなど主体的なチャレンジに寄与させていただくご支援もお願いするところです。また一方で、IT機器関連の膨大な環境整備、防災防犯も重視した校舎の設備関連など必要経費が急速に増大しております。

私立学校としての財源は、「校納金」と「助成金」と「寄付金」が主な柱となります。校納金や助成金の抜本的な増額がともに困難ななか、ご支援のお志をお受けする「寄付金」の受け皿が切実に求められる時代の流れになっております。周年行事の節目にとどまらず、永続的な基金の構築に向けて、幅広い個人と団体からのご寄付をひきつづきお願い申し上げます。

基金の詳細は、基金のご案内リーフレットや学校法人湘南学園のホームページをご参照ください。広範な皆様のご理解をいただき大きなご支援を賜りたく、今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

2020.1.15

松ぼっくり基金

寄付金納入期間 2019/10/16～2020/1/10

寄付金合計額

4,793,000

使 途 別	～前回報告		今回報告		合計		内、継続寄付	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般寄付金	93	2,133,000	12	308,334	105	2,441,334	1	5,000
学園高校生の海外留学支援	2	15,000	0	3,333	2	18,333	1	10,000
学園中高生の部活動支援	14	315,000	5	293,333	19	608,333		
学園小学校の教育環境支援	15	325,000	1	10,000	16	335,000	1	50,000
学園幼稚園の教育環境支援	1	15,000	0	0	1	15,000		
特別教職員採用・教職員研修支援	1	75,000	0	0	1	75,000		
その他	2	15,000	0	0	2	15,000		
記入なし	22	1,280,000	1	5,000	23	1,285,000		
合 計	150	4,173,000	19	620,000	169	4,793,000	3	65,000

※使途が複数の場合は、件数は記載順でカウント、寄付金については均等に分配

関 係 別	～前回報告		今回報告		合計		内、継続寄付	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
卒業生	91	2,193,000	7	145,000	98	2,338,000	2	15,000
在校生保護者	44	845,000	11	470,000	55	1,315,000	1	50,000
（高等学校）	(10)	(215,000)	(4)	(245,000)	(14)	(460,000)		
（中学校）	(10)	(255,000)	(2)	(15,000)	(12)	(270,000)		
（小学校）	(20)	(345,000)	(3)	(140,000)	(23)	(485,000)	(1)	(50,000)
（幼稚園）	(2)	(15,000)	(2)	(70,000)	(4)	(85,000)		
（記入なし）	(2)	(15,000)			(2)	(15,000)		
教職員	0	0	0	0	0	0		
一般	3	30,000	0	0	3	30,000		
企業・法人	1	1,000,000	0	0	1	1,000,000		
団体等	0	0	0	0	0	0		
記入なし	11	105,000	1	5,000	12	110,000		
合 計	150	4,173,000	19	620,000	169	4,793,000	3	65,000

※関係が複数に渡る場合は、件数および金額は記載順でカウント

..... 学 校 法 人 か ら

● 理事会報告

これまでに、次の理事会を開催いたしましたのでご報告いたします。

第 4 回臨時理事会	9/6
第 6 回定例理事会	9/21
第 5 回臨時理事会	10/11
第 7 回定例理事会	10/26
第 6 回臨時理事会	11/8
第 8 回定例理事会	11/22
第 7 回臨時理事会	12/6
第 9 回定例理事会	12/21

主要な議題・報告等

- 次期学園長選任に係る公告について
- 会計（法定）監査法人との契約について
- 固定資産（機器備品）の除却について
- 理事・評議員選任規程の改正について
- 松ぼっくり基金の開設に向けて
- 育児・介護休業等に関する規則の改正について
- 2020（令和2）年度予算編成方針（案）について
- 松ぼっくり基金の募金受入状況について
- 次期学園長の選任について
- 松ぼっくり基金運営委員会の発足について
- テクノ棟屋上換気設備補修工事業者選定について
- ストレスチェックテスト報告会について
- 退職管理職の再任用について
- ストレスチェックテスト結果報告

● 評議員会報告

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

第 2 回評議員会 9/21

主要な諮問事項・報告等

- 固定資産の除却について
- 次期学園長選任にかかる公告について
- 「湘南学園松ぼっくり基金」の創設について
- 理事・評議員選任規程の改正について



..... 事 務 局 か ら の ご 連 絡

● 住所変更のお手続きについて

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

● 登下校・登降園時の自家用車送迎禁止について

湘南学園では、園児・児童・生徒の登下校・登降園にあたっては、自家用車での送迎は原則禁止とさせて頂いております。園児・児童・生徒の安全確保はもとより、近隣の住民の方等への安全配慮もご考慮いただき、改めてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、園児・児童・生徒の病気や怪我等の特別な事情で止むを得ない場合は、必ず事前に学校（園）にご連絡くださいますようお願い申し上げます。